



## 創立70周年を迎えて

関東学生卓球連盟

会長 佐藤 行信

関東学生卓球連盟創立七十周年記念誌を学連理事の皆様のご協力の結果、短期間に発刊することが出来ましたことを感謝申し上げます。今度はすでに十年前に立派な創立六十年誌が出来上がっておりますので、それに十年の資料を加える形で十年分の記念誌を発刊させていただきます。

お陰様で加盟各大学の御努力の結果この十年間も日本学生界においては輝かしい成績を男女ともおさめることが出来ました。

しかし、檜山先生(元会長・現名誉会長)のおっしゃった有名なお言葉、「関東を制するものは日本を制し、日本を制するものは世界を制す」、この日本、世界となるとお言葉のようにはまいりません。過去の栄光の歴史に比してさびしいかぎりでございます。このことに関しては学連の全員が強く責任を感じております。過去の栄光をとりもどすには指導者も選手も一丸となって努力しなければなりません。この至難の技を成就しなければ過去の栄光はもどってまいりません。皆さんの御協力で八十年誌の記録には輝かしい資料がのるよう努力しましょう。

現在、日本卓球リーグ実業団連盟で多くの先輩が活躍されております。この日本卓球界の中核的存在の関東学連が七十年を機に名実ともにますます隆盛になるよう、我々現在関東学連をお預かりしている役員一同努力することをお誓いいたします。

なおこの記念誌を中心として記念事業に関東学生OB卓球連盟と学連の理事および監督、学生役員の皆様は大変お世話いただいたことを感謝申し上げます。



## 関東学生卓球連盟 創立70周年にあたって

関東学生卓球連盟

理事長 齊藤 進

伝統と輝かしい歴史を持つ関東学生卓球連盟が創立70周年を迎えられ、記念誌の発刊、そして記念式典を厳粛かつ盛大に挙げてきました事は、偏に諸先輩、関係各位のご芳情によるものと深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。十年一昔という言葉が物語るように、一口に70年と申しましても、それは極めて長い道程であり、また多くの関係役員の苦勞と喜びの数々を秘めた貴重な歴史そのものでもあります。

現在の関東学生卓球連盟は、昭和2年5月15日に青山会館において発足したのがその起源です。10年前の昭和62年(1987年)に関東学連創立60周年記念行事を開催し、今回は平成8年(1996年)までの10年間の記念誌といたしました。振り返ると10年の間にもいろいろの事がありました。平成元年には、関東学連に連盟旗が誕生しました。これまで長い伝統がありながら、シンボルマークを持たなかった関東学連がなお一層の団結を図り、さらなる飛躍・発展を願う象徴として連盟旗を作成したことは、意義深いものがあると思われまします。略号で、「K-ANTO. STTF」となっていますが、このTTの部分は手をつないだ人を表して「団結」を意味し、同時に上へ向

かう矢印を表して「飛躍・発展」を意味しているものであります。また、平成5年には、関東学連創立以来初めて女性の幹事長(小田晶子)が誕生しました。競技面においては、学生選手の低迷を指摘するさなか、平成8年の第26回夏季オリンピック(アメリカ、アトランタ)に現役学生から、田崎、遊澤(共に明大)の両選手が日本代表として出場しました。また、その年の9月に第11回世界大学選手権(オーストラリア、ジロング)では、関東学連の選手が大活躍し、男、女団体戦で、アベック優勝(男子は2連覇、女子は初)を果たし、個人戦においても男子複(田崎、遊澤)・混合複(田崎、岡崎)を制し学生卓球界に希望をあたえてくれました。なんと申しましても今年4月に行われました第44回世界卓球選手権大会(イギリス、マンチェスター)に於いて、関東学連出身の松下、渋谷(明大OB)両選手の男子複銅メダルという輝かしい実績があります。また忘れられない悲しいこともありました。偉大な萩村伊智朗先輩(国際卓球連盟現職会長)の急逝です。明晰な頭脳、人並みはずれた努力で、国際平和のための外交のお膳立てをし、各国の仲介役を務め、国際関係が正常化に結びつく卓球外交を展開されました萩村氏の突然の死は、学連をはじめ、国内、国外の卓球界に大きな波紋を広げることになりました。心より哀悼の意を捧げます。関東学連もこの70周年を契機に、また21世紀に向けて関東学連の名誉会長であります檜山與八郎先生の名言「関東を制する者は日本を制し、日本を制する者は世界を制す」を実現すべく、選手強化の為に多様な事業にチャレンジし長期的にこれらを一層発展させていくことを考えていきたいと思っております。

終わりに記念誌編集委員の原田、武山、恒川、鈴木各氏の献身的なご努力に心より感謝申し上げます。また発刊にあたっては、印刷面で、全面的御協力いただきました新峰商會に深甚なる謝意を表します。

## 関東学生卓球連盟 創立70周年にあたって



関東学生卓球連盟

幹事長 佐々木 基之

関東学連が、創立七十周年を迎えられることを心からお祝いいたします。また、これを記念して、盛大な祝賀会が挙行されると共に、記念誌を発行出来ました事は、諸先輩方の献身的な努力のおかげだと、現役学生一同たいへんありがたく思っております。

歴史の古いことは、尊いことだと思います。しかし、なにより大切なことは、その歴史を誰がどのように築いてきたかに意義があると思うのです。その歴史の一ページともいえるこの記念すべき年に、関東学連の幹事長を務めさせていただいたことは、たいへん光栄に思うしだいですが。しかしその反面、自分自身その責任重大な役、すなわち七十周年という一つの区切りから、七十一年目という新しい年への受け継ぎを無事に果たすことができるか、不安を感じています。

ちょうど今年、第四十四回世界選手権大会が、卓球発祥の地イギリスのマンチェスターで開催され、関東学連OBの渋谷選手、松下選手がダブルスで3位入賞という快挙を成し遂げました。これは、日本卓球界に大きな影響を与えたとともに、関東学連創立七十周年記念に対しても、この上ない贈りものだと思います。

発足当時は、ごく少数の加盟校によって成り立っていたと聞く学連も、七十周年の今日では、百五十余校に及ぶ他のスポーツ界では類を見ない大組織にまで発展したのも幾多の卓球貢献者のお陰だと思っています。これからも偉大な諸先輩方の活躍を土台として、学連が一同となって、向上のために、力一杯努力していきたいと思っております。

最後に学連発展のために幾多の苦難と栄光を歩んでこられた多くの歴代会長ならびに、諸先輩の方々に、心より感謝申し上げますとともに、今後とも関東学生卓球連盟がより以上飛躍するために、皆様方の一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。